



アビリティトレーニング社長

東大・京大の合格者名が週刊誌に掲載され、その中にS君の名があつたのです。『S君やつたな』私は思わず心の中で叫んでいました。■私は学習塾講師として、生徒によくS君の話をし、人生の素晴らしさ、人間の可能性を伝えました。

して涙し、やる気が高まつていくのが伝わってきます。この話に限らず心からの感動を覚えた時、子供たちの目は輝き出します。生活態度や学習態度だけでなく、不思議なことに学力向上にも顕著に反映してくるのです。

ある時、生徒と講師の絆を深め、子供たちの人間性や学力を育むキーワードが「感動」と気づいた私は、日々の学習活動の中でいかに感動を与えるか、という心の教育に力点を置くようになりました。

感動とは、それまでの思い込みがひとつくり返る時に起ります。授業のちよつとした工夫でもそれは伝えることが可能です。例えば、難解な数学の問題を前に四苦八苦しているような時、予想もしない解法を示してあげると、「あつ、そうか」と歎声が上がります。これも感動で

■ 心の働きの大きさを知つた私は、数学の授業中によく偉人や市井の人たちにまつわる様々な逸話を紹介し、人は何のため学ぶのか、どう生きるべきなのかといったメッセージを繰り返し繰り返し伝えました。S君の話もそのひとつです。

入試直前、私は子供たちを会場の一所に集めて最後の訴え掛けをします。彼らを精一杯勇気づけて会場に送り込んであげるのです。私は励ました。ましの言葉の後、こう付け加えました。

「きょうは素晴らしい舞台が準備されたね。でも、これは君たちの力だけできただけで、ここではないよね。誰がお父さん、お母さん」という声が返ってきます。「そうやな。じやあがこれから会場に行くけれど、その前にそこにあるご両親に一分間だけ

かの応援があつたよな?

欲を一層高めていったのです。■私は学習活動に感動という要素を取り入れる中で、数ある感動の中でも、人の役に立つていいことを認識するほどの喜びはない、感じるようになりました。やがてそれはある確信へと変わりました。つまり、**教育の目的は2つ。ひとつには自己の成長、もうひとつが他人の役に立つていて、その役に立つて、自分が幸運を育むこと**だということです。そこで決まって申し上げるのは、自分だけの幸運は絶対にあり得ないということです。子供たちは皆、それぞれの得意分野を持つています。それを伸ばして社会の役に立つことができたら、子供たちにとつて、これほどの幸運と感謝はありません。それを支援するの教育者や大人の役割なのです。

決まって申し上けるのは自分だけの幸せは絶対に

教育に必要な2つの要素

て間もない頃、S君といふ中学3年生の生徒が入塾してきました。無口で少し変わった子でした。授業の時にノートを出さない。数学の問題はテキストの余白で計算する。だから計算ミスばかりしているのです。たまりかねた私は、ある時、彼を呼び出して言いました。

「ノートはどうした？」しかしS君は黙つたままうつむいています。次の日は必ずノートを持ってくるよう約束させましたが、それでも彼はノートを持つてきませんでした。

私は力ちんときて思わず怒鳴りつけました。「反抗する気やな。よしきは500枚ほどのコピー用紙のボンと投げ出しました。

起業家高橋受験で数多くの合格者を出すカリスマ塾講師として子供や保護者の高い支持を集めた木下晴弘氏。氏は子供たちの人間力に焦点を当て、それを伸ばすことで顕著な実績をものにしてきた。人間の運命をも変える心の力を、氏はどのようにして教育に取り入れてきたのか。

▼「自分だけの幸せは絶対あり得ない」と喝破する木下氏だが、これは宮沢賢治の「世界が全体幸福にならないいうちは個人の幸福はあり得ない」に通じ、また自利利他の理念もある。更に「人の役に立つていてこそを認識するほどの喜びはない」との木下氏の言葉こそ、利他の本質を突く素晴らしい言葉である。

私は保護者面談でS君の母親は生活態度を改めるよう注意を促してほしいと訴えましたが、母親は呟くように話を始めました。

「あの子は小学校の頃から、この塾に通つてK学院に進学するのがずっと夢だつたんです。でも先生、大変申し訳ないのですが、うちにはお金がありません……」

■S君が早くに父親を亡くし、母親が女手一つで彼を育て上げてきることを知つたのはこの時でした。

勉強するのか夢だったといふだけあります。すると約2か月で700人中ベスト10に入るまでになつたのです。まさに信じがたい伸びでした。S君はそれからも猛勉強を続け、最高水準の問題をこなせるようになりました。

■ K学院の入試も終わり、合格発表の日を迎える。私は居ても立つてもいられず早めにK学院に行き、合格者名が張り出されるのを待ちま

「前まで泣いていました。これでおまえはK学院の気気がつくとS君と母親は掲示板の
院の生徒じやないか」
「私がことのように喜んで声を掛け
た私に彼は明るく言いました。
**「先生。僕はK学院には行きません。
公立のT高校で頑張ります」**
私は一瞬「え?」と思いました。
T高校も高レベルとはいえ、K学院
を辞退することなど過去にないこと
だつたからです。

■大学卒業後、いつたんは銀行に就職したものの、同じ塾の専任講師になりました。様々な苦労をし、何とか人気講師として支持を得ることができるようになりましたが、それでも大きな壁にぶつかることがしばしばでした。

私はよく、子供一人を講師に選び自分の得意分野を皆の前で講義してもらっていました。これも予想を上回る結果を出しました。教えるには

教育の目的は自己の成長と人の役に立っているという認識を育む

総集編
後編

「いひとつのもの…まさに心身一如。左記に「人の役に立つてことを認識するほどの喜びはない」とあるが、医学上でもその

中川久公 (なかがわ・ひさただ)